

防水材には下地調整材は重要です

金属屋根の防水改修工法としてご好評いただいております「ビッグサンMR工法」ですが、今回は学校の体育館屋根にMR工法が採用された事例を二つ紹介させていただきます。

事例1）横浜市内、某中学・高校体育館屋根改修

大手設計事務所からの問い合わせがあり、横浜市内にある某中学・高等学校創立百周年の建築計画の一環で、既存の3階建て体育館の改修計画が持ち上がりました。当初設計事務所は金属屋根力バー工法を検討していましたが、塗膜防水による改修を検討したいとの事でした。そこで、ビッグサンMR工法で施工可能な下地なのか現況を見てほしいと依頼があり、設計の方と現地調査を行いました。既存はカラー鋼板の瓦葺（七七七㎡）。塗装は薄く残っている状態。錆の発生もそれほどひどい状況では無く、ハゼのカシメ部もひどく開いている箇所は有りませんでした。特別な事前補修は必要なく、充分MR工法にて施工可能と判断し、遮熱防水仕様であるMR1工法をご提案し採用いただきました。

◆採用理由

①設計見積もり段階で塗膜防水の方が金属屋根力バー工法よりも格段に安かった事。

②建物の構造上、耐震性の問題からあまり屋根荷重を増やしたくない事。が主な理由でした。

ビッグサンMR工法導入事例

事例2）千葉市内、某大学体育館屋根改修

千葉市内にある某大学の施設担当の方からMR工法について問い合わせがありました。インターネット上で金属屋根防水について調べていて弊社のMR工法にたどり着いたとの事でした。以前から体育館で漏水が発生しており、そのたびにシーリング材などで応急的な補修は行っていたようですが、部分的な補修では漏水が解消されないため、屋根全面の防水改修検討に踏み切ったようです。

設計見積もりの依頼をいただき現地調査を行いました。既存はガルバリウム丸馳折板（二三〇〇㎡）。錆の発生はほぼ無い状態でしたが、ハゼ部の開きが所々大きい箇所がありました。

MR工法で施工する場合、ハゼやジョイント部はMRテープという専用の補強テープを使用しますが、丸馳へのテープ貼りは困難なため、当現場ではシーリング材充填処理を推奨し、その上でMR工法の施工をする事を提案、採用いただきました。

作業中の臭気が気にならない環境対応型の材料でありながら、性能について紹介させて頂きました。

エポキシポリマーセメント材料なのに完全2材型

今までのエポキシポリマーセメント材料は、主剤・硬化剤・粉材の3材型でした。「スカイレジンエポフィラー」は主剤と粉材を1つにする事で、完全2材型の材料とする事に成功しました。

2材型になった事で材料の混合ミスがなくなるだけでなく、主剤のエポキシ樹脂と粉材を1材化することで、粉材は湿潤感のある性状となり材料混合時の粉塵の発生が減少しました。また、材料の容器も2/3になり、結果的にゴミの量も減らすことができ、水系材料である事と併せて、地球環境に優しい材料となっています。

既存の下地はモルタルやコンクリートだけではなく、ウレタン防水であったり、FRP防水であったり、時には磁器タイルであったりと建物によって様々です。

改修工事の際、どのような防水材や塗料を使用するにも、下地調整が非常に重要な要素となります。

既存の下地の材料とこれから施工する塗材の相性が悪いと、最悪の場合せっかく塗った材料が剥がれてきてしまったりする事がありますが、このような時に活躍するのが下地調整材です。

弊社の水系エポキシ系下地調整材「スカイレジンエポフィラー」は発売開始から今年で15年目を迎え、各種改修工事現場で大変好評を戴いております。

今回は改めて「スカイレジンエポフィラー」の優れた

防水・防錆・遮熱効果が期待できる点を気に入って頂いたのはもとより

◆採用理由

①体育館を使用しながらの工事となるため、既存屋根へのアスカー打込みが必要な工法（塩ビシート防水機械固定工法、金属屋根力バー工法等）は極力避けたい事。

②海岸が近く海風などが強い事もあり、スプレー工法等飛散の恐れのある工法は避け、手塗りで施工できる塗膜防水を希望されていた事。が主な理由でした。

さて、今回ご紹介させていただいた採用例のように、既存の建物の改修工事では様々な制約が付きまといまふ。

環境対応かつ軽量な高柔軟性ポリマーセメント系塗膜防水「ビッグサンMR工法」は、防水効果、防錆効果、遮熱効果といった様々なメリットでお客様のご要望にお応えしております。

2009年上市以来、多数の施工実績からもその性能・効果は実証済みです。金属屋根の改修工事には、ビッグサンMR工法を是非ともご検討ください。

や耐薬品性に悪影響を及ぼすだけでなく、材料強度も低下させてしまいます。従来型材料では、エポキシ樹脂をエマルジョン化するためにやむを得ず使用されていたのですが、「スカイレジンエポフィラー」は、この界面活性剤を使用せずにエポキシ樹脂をエマルジョン化する事に成功。

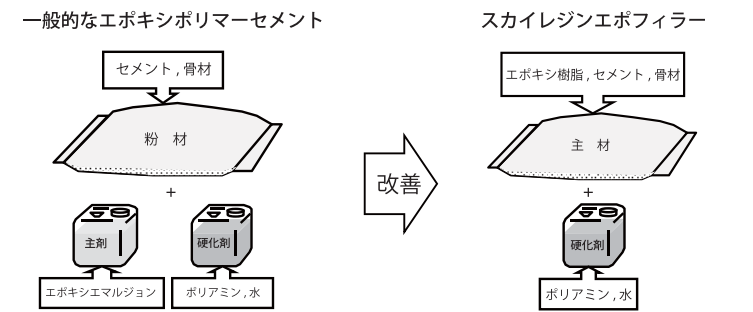
界面活性剤を含んでいないため、エポキシ樹脂の持つ強力な付着力、耐溶剤性等の優れた性能を活かす事が可能になり、ビッグサン防水材等の水性材料はもちろん、ウレタン防水やFRP防水等の溶剤系防水材の下地調整材としても活用して頂けます。

「スカイレジンエポフィラー」をまだ使った事がないというみなさま、是非一度お試し下さい。

必ず「スカイレジンエポフィラー」のファンになって頂けると思います。



こんなところで活躍しています



スカイコートW

＜タイル張り面の透明外壁防水材＞

透明度の高い水系ウレタン樹脂を主成分とした1液型外壁用透明防水材です。

透明な塗膜
タイル仕上げの
意匠性は
そのまま!!

スカイレジン＜下地調整材＞

**スカイレジンWE
エポフィラー
プライマー-E
EPC-T**

水系エポキシポリマーセメントモルタルの新しい形です。溶剤型塗布材料の下地調整材に最適です!

BIGSUN ラピタルエース

＜速硬型軽量プレミックスモルタル＞

コンクリート欠損部の補修に最適なポリマーセメントモルタル

速硬
軽量
厚塗り可能
取扱簡単!!

冬用ビッグサンとセットどうぞ!!